



# みどりのきずな

令和2年4月発行 第39号

編集: 緑区支え合いのまち推進協議会広報部会 発行: 緑区支え合いのまち推進協議会事務局 緑保健福祉センター内

TEL:043(292)8185 FAX:043(293)8284

台風15号・19号・10月25日の大雨被害時における対応と今後の課題

緑区支え合いのまち推進協議会 委員長 岡本 博幸

## 1 はじめに「台風千葉市直撃の報道」

「災害は忘れた頃にやってくる」言い伝えがありますが、今回の台風は千葉市においては今世紀最大の台風であり、大きな被害をもたらしました。各新聞紙は「最強の台風関東県央に上陸。交通網寸断被害甚大」との報道でした。今もって屋根のブルーシートがあちこちに見られます。

## 2 台風15号の被害・対応状況について（千葉市）

①気象警報（銚子地方気象台発表、対象地域：千葉市）

[警報]暴風、波浪、大雨、洪水 [注意報]雷、高潮 [その他]土砂災害警戒情報

②避難勧告（9月9日午前6時40分発令）

[対象地域]土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域、急傾斜崩壊危険箇所

[対象世帯人数]1250世帯 2866人 [勧告理由]土砂災害警戒情報が発表されたため

③降雨状況（観測地点：緑区役所） [累積雨量]113.0mm

④風速状況（気象庁HP、観測地点：千葉特別地域気象観測所）

最大瞬間風速 57.5m（9月9日4時28分・観測史上最大）

⑤被害状況（緑区）[令和2年2月14日現在]

軽症 14（停電に伴う被害）、住宅被害全壊 6、半壊 70、一部損壊 1408、床上・床下浸水 2、非住宅被害 43、文教施設 10、道路冠水 15、車両被害 8、倒木 424、その他 178

農業被害額 約8億5千万円

## 3 避難箇所開設と避難者数

①避難者数（15号/19号台風時）※延べ人数

区役所 88人/一人、鎌取コミュニティセンター 55人/325人、誉田公民館 182人/231人、椎名公民館 128人/60人、土気公民館 33人/177人、おゆみ野公民館 64人/129人、越智公民館 1人/49人、土気あすみが丘プラザ 一人/193人、土気中学校 一人/69人

②公民館等の対応（椎名公民館）

椎名公民館（水、クラッカー、アルファ米提供）避難者の声「毛布の提供がほしい」

※避難所との連携については、今後推進協議会において話し合っていきたいと考えております。

## 4 社会福祉協議会の対応 [令和2年3月5日現在]

①市社協の対応

全国から延べ518名のボランティアが参加。倒木・がれきの片づけ撤去、家財道具の運搬等延べ182件、館山市災害ボランティアセンター運営支援に職員派遣延べ28人、長柄町災害ボランティアセンター運営支援に職員派遣延べ44人。

②緑区社協の対応

ボランティアニーズの調査確認、倒木・がれきの片づけ撤去、家財道具の運搬作業等延べ47件。

## 5 今後災害に対しての課題と対策

第1は、情報の伝達です。市・区・町村にどんな被害があり、どんな対策を講じているのかを認識する必要があります。第2は、各団体との連携です。中でも各避難所運営委員会との連携は密にし、対策がとれるようにしていきたいと思っております。第3は、災害・対応に対しての情報の活用です。情報を区民に提供することで災害時に役立ててほしいからです。

# おゆみ野地

## 災害に強いまちづくりに向けて

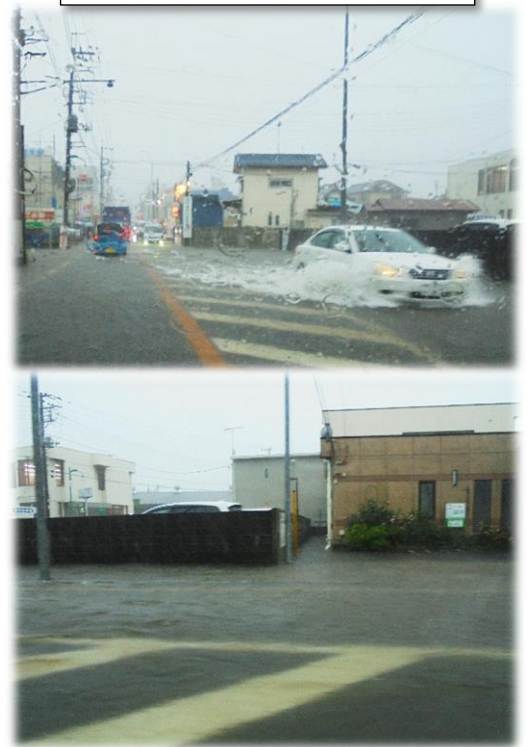
台風15号、19号、後の10月の大雨で緑区全体では大きな災害となり犠牲者も発生いたしました。

身近で災害を目撃した方たちにとっては心の痛手となり、あの日以来、少しの雨や風でも不安な時間を過ごすことが多くなったのではないのでしょうか。実際に普段は何事もなく車が通行している大網街道では、雨が降り始めて何時間も経っていないのに道路数メートルにわたって水の量が急に増え、車体の半分が水につかり動けなくなった車を目の当たりにしました。また、波の様に押し寄せる水しぶきを窓から眺めていると恐怖を感じずにはいられませんでした。

幸いおゆみ野地区では大きな被害はなかったようですが、がけ崩れ、冠水しやすい道路の場所、瓦の壊れる被害の多い風の通り道、停電しやすい地域と原因、断水になり易い地域と原因など、地域で共有しなければならない情報はたくさんあると思われます。

このたびの経験を活かし、災害に強いまちづくりを目指すためにも、今後そのような情報を共有していきたいと思えます。

10.25 大網街道（菅田駅付近）



# 菅田地区

## 災害に不慣れな千葉県を襲った台風被害(ときわ園)

9月9日（月）未明、房総半島を台風15号が直撃しました。苦しかったのは、そこから4日続いた停電でした。停電すると、井戸のポンプが動きませんし、エアコンが効きません。厨房内の電磁調理器具も作動せず、照明も制限され、メールやインターネットも使えません。停電は4日目の夕方16時頃まで続きました。

一方で、様々な方々から支援を頂戴したことは、ひとときわ印象に残る出来事でした。

2日目の朝、施設に通じる道路を塞いでいた倒木を、平川町内会の役員の皆様がチェーンソーご持参で撤去してくださいました。

3日目の水曜日午前、平川浄水場で飲料水をいただき施設内各所に水を分配できました。菅田のヤクルトさんからは氷を頂戴し、暑さに弱った入所者の体を冷ますことができました。同じく午後には、入間の航空自衛隊の若人が配水車で駆けつけてくださり、更に飲料水を確保できました。

4日目木曜の夕方、東北電力の電源車が来てくださり、やっと施設全体に電力が戻ってきました。

5日目金曜日の昼前、ようやく東電の電送網に再接続されて、完全に電力復旧が果たされました。

この間、千葉市役所介護保険事業課様や千葉市老人福祉施設協議会様からの救援物資や、セブン・イレブン・ジャパン様からは日用品の援助物資を頂戴しました。他にも、近隣の施設様からは安否確認のご連絡をいただき、冷却材・ガスボンベなどをお譲りいただきました。また入所者のご家族様からもアルカリイオン水などの物的援助だけでなく、精神的な励ましをいただきました。

これらのご厚意に対する感謝は本当に言い尽くせませんが、支え合いの精神が着実に形成されつつあることを実感いたしました。皆様への感謝を胸に、今後も緑区の更なる支え合いのまちづくりに向けて、ますます努力と精進を重ねていきたいと思えます。

給水車による支援（入間航空自衛隊）





# 土 気 地 区

## 大規模な崖崩れが発生！（ガーデンセブン）

台風15号・19号そして10月25日の大雨により、土気地区でも大きな被害が出ました。

台風15号では倒木による通行被害、冠水による被害、そして殆どの地域が停電し、暑い日が続く中で1週間以上も停電していた地域もありました。

そして10月末の大雨では、各地で冠水被害や崖崩れの被害が発生しています。その中でも緑区大木戸町にある「障害者支援施設ガーデンセブン（定員40名）」では、施設裏の崖が崩れて土砂が建物内にも侵入し大きな被害を受けました。幸い人的な被害はなかったのですが、障害を持ち施設に入所している利用者の方達が生活できる状況ではなくなり、且つ危険な状態が続くため、急ぎ利用者の方達を可能な限り自宅に戻して一時避難をしてもらい、どうしても帰宅できない方6名は施設内の一番安全と思われる場所にベッド等荷物を移動させ、日常とは違う不便な生活を送ることになりました。自宅に一時避難している方達はその後、千葉県内の各施設に一時入所させてもらったりしています。

土砂の撤去・擁壁など崖の補強工事を経てから施設内を復旧させるまでにはかなりの時間を要するようで、利用者の方達が戻ってきて元の生活を送れるようになるまでの目途も、施設が通常の運営ができるようになるまでの目途も立っておりません。1日も早い復旧を祈りながら、ガーデンセブンの利用者さん・職員・関係者の皆さんを励ましていただければと思います。

崩れたガーデンセブンの裏の崖



# 椎 名 地 区

## 椎名地区の台風災害と対応状況

椎名地区は田畑が広く分布する地区のため、台風15・19号では風の通り道となり、多数の家屋の屋根や壁に被害を受け、今もなお修理中の状況が続いています。

台風15号では、被害を受け自宅での生活が困難になってしまった4世帯の方々が、約1ヵ月間、椎名公民館で避難生活をされました。

また、台風19号では、台風15号の体験を教訓に、早々に40名程の方が椎名公民館に避難され、一晚を過ごされました。

椎名地区には、市の指定避難所として、古市場体育館、椎名公民館、椎名小学校の3ヵ所が指定されており、避難所運営委員会が設置されています。しかし、いずれも震度6弱以上の地震を想定しての対応のため、今回の台風や水害時における運営委員の参集はありませんでした。風水害・土砂災害時の避難所開設のマニュアル整備を切望いたします。

また、10月25日大雨の災害では、椎名地区で唯一開設していた避難所の「椎名公民館」で裏山が崩壊し、「古市場体育館」が臨時的避難所として開設されました。公民館は3月末までの休館が決まっている状態です。

大雨で裏山が崩壊（椎名公民館）



### 台風 15・19 号・10 月 25 日の大雨について(緑区 高齢障害支援課)

台風 15 号・19 号及び 10 月 25 日の大雨は、過去に例を見ない暴風等による家屋破損や長期に渡る停電、土砂崩れなど大きな被害をもたらしました。台風 15 号では、緑保健福祉センターも停電となり数日間、暗く蒸し暑い中での業務となりました。

直に地区民生委員会長に連絡を取り、災害時要援護者名簿に登録されている高齢者等の安否確認と支援が必要な方がいないか調査していただきました。

一方、緑区役所では災害対策本部が設置され、各部署より動員配置された職員がブルーシートや土のうの配布、避難所へ飲料等の必要な物資搬入、り災証明の受付、受付後の現場調査を行ってきました。

現在も、(3 月末現在) 被災した方たちの総合支援相談窓口、り災証明受付・交付窓口は開設されている状況です。

### 台風 15・19 号・10 月 25 日の大雨について(社会福祉協議会 緑区事務所)

千葉市で大規模災害が発生すると、社会福祉協議会(社協)が災害ボランティアセンター(災害 VC)を立ち上げ、復興・復旧に向けたさまざまな支援活動を行います。これは、千葉市だけに限らず、ほとんどの市区町村社協でもその役割を担っています。

今回の台風 15 号・19 号及び 10 月 25 日の大雨の災害においては、千葉県内でも多くの市町村で災害 VC が立ち上がり、千葉県全体で延べ 3 万人を超えるボランティアの方が復興支援活動を行いました。

今回、千葉市においては災害 VC ではなく元々社会福祉協議会が担っているボランティアセンターの業務の中で、ボランティアの方を受け入れ、被災された方の復興支援活動を行いました。全国から延べ 518 名のボランティアの方にご協力いただき、倒木やがれきなどの片付け・撤去、家財道具の運びだし作業など延べ 182 件の支援活動を行いました。このうち緑区では、延べ 168 名のボランティアの方の協力で、47 件の支援活動を行いました。緑区は千葉市内でも特に被害が大きく、お手伝いをしたお宅の中には突風で屋根が吹き飛んでしまい、家中のほとんどの家財道具が水浸しで使用できなくなってしまったところもあり、トラックで何往復もして運び出し作業も行いました。

また、このたびの災害では住民の方同士のお互いに助け合う姿を拝見しました。停電が長く続いた地域では、発電機を使った携帯電話の充電対応や炊き出しを行う住民の方の姿、川が越水しお宅が浸水してしまったお宅の片付作業を手伝う近隣の方の姿、崖の斜面が崩れ土砂が庭に流れ込んでしまったお宅の土砂かき・土砂の運搬を手伝う自治会の方の姿、倒木により車の出し入れが出来なくなってしまったお宅の木の切断作業のお手伝いをしてくれたお隣の方の姿、また大きな崖崩れの発生した知的障害者支援施設のガーデンセブンさんでは、他の施設の職員の方や自治会の方、民生委員の方が土砂かきを手伝う姿も拝見いたしました。このようないわゆる共助と呼ばれる活動が至るところで行われておりました。我々社協としては、この住民の方同士の助け合い・支え合いの気持ちを大切に育てていきたいと思っております。

最後に、今回の一連の災害においてご協力いただきました全ての方々に御礼申しあげるとともに、今回の災害によって尊い命を落とされた方のご冥福と被災されました皆様方の一日も早い復興をお祈りいたします。